
ネギまに生まれた始祖精霊

蒼騎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギまに生まれた始祖精霊

【Zコード】

Z0023Z

【作者名】

蒼騎

【あらすじ】

ネギまの世界に転生した主人公の話。

この作品は作者の処女作です。温かい目で見てください。

この作品は独自設定、キャラ崩壊、原作崩壊、アンチがあります。
苦手な人は見ないでください。

プロローグ

「知らない空間だ・・・」

なんだこの真っ白な空間は？

はつ！まさかここは一次創作でよくぐる神様のいる空間か！いやいやおかしい・・・俺はまだ死んでないはずだ。これがテンプレ通りなら、俺が何らかの理由で死んだから転生させてあげるって展開のはずなんだがどういうことだ？それともこれはただの夢という落ちか？

「その通りじゃ。」さればお主の夢の中じゃ

神様があらわれた。

俺が振り向いてみると・・・眼に光が入つて眩しい！？

そこには顔が輝いていて良く見えなかつたが、良く見てみるとそこにはかなり伸ばした髭とツルツルで光り輝く頭をもつた神がいた。神様の神々しい光つてツルツル頭の反射の光だつたんだなつとしみじみ思つと・・・

「お主は失礼なやつじゃな」

ん？思考が読まれてる？

まあ神様の良くある能力か・・・人の頭を覗き見る変態め！

「これこれ、神を変態扱いするんじやない。」

「で、その変態神様が一体何の用で？それになんで俺の夢の中に入ってきた？」

「それはお主を転生させようかな～と思つてきたのじや。お主の夢の中には、はつきり言つて偶々じや。基本ランダムで誰の夢の中に入るかは僕も分からんのじや」

へ

転生か・・・面白そうだ。一度やつてみたいと思つてたんだよな。魔法とかあるファンタジーなどいうが良いな。やっぱ男は魔法と言う浪漫がある世界に行くべきだと思うんだよね。

「ふお～そうかそうか。良かつたのじや」

「いつたい何が良かつたとこりゃんだ？」

「僕は暇でな。暇だから誰かで遊ぼうと思つたんじや。ちなみに転生させようとしたのはお主で7人目じや。前の6人は転生したくないと言つて駄目だったんじや」

ふうん。転生とか誰もしたことがないことを断る人が結構いるもんだな
なんだろう？

「前の6人は大切な人を悲しませたくないとか好きな人と離れたくないって言って断ったのじゃ」

え・・・？普通神様の転生つて周りから自分の存在を消して転生させるんじゃないのか？

それなら俺もやめよ・・・・・・

つて俺にはもうそんな人いね～。orz

両親はもう死んでるし、好きな人は告つてもキモイの一言ですべて

振られるし・・・

別にこの世界に未練なんてないかもｗでか前の6人はリア充だったのか。

ん？なんか神様が泣いてるんだけど・・・

「グスッ・・・なんて可哀相な人生なんじゃ。儂からの気持ちとして今転生すると、転生先でなにかを叶えさせてやるつ！」

なんて優しい神様なんだろうか！

なにを叶えさせてもらおうかな～やっぱ転生と言つたら能力だよね。俺最強とかやってみたいしな～・・・つて待てよ。

「この転生つて何の能力なしのただの人として転生させるものだつたのか？」

「その通りじゃ。なんで転生するのに能力なんているんじゃ？まあ

お主は今があまつに可哀相なんで能力を一つや二つないでよ。

ほつ・・・良かつた。

でもこれって喜んだらいいのか、泣いたらいののかわからね……

「笑えばこいと黙つよ」

「笑えねーよーなに真顔で言つてんだよ。めつりや傷つくなー。」

「まあ冗談は置いといて、転生先で願ひことせびりますのじか~」

「まざすせびる転生するのか教えてくないか?」

「希望どいでも良いだ。希望がなければフンダムじや」

「じゃ『魔法先生ネギまー』の世界で」

魔法が使いたいならやつぱね、ギまーの世界だよね。
リリのでも良いけどあやしむ管理局がつづりだしどうなによ
り可愛い子が少ない！
ネギまーは正義の魔法使いがつづりだび、原作のクラスメイト
みんな可愛いらしくからな。

それにエターナルロリータといつ貴重な存在もいるし…
あつ・・・リリなのにもいるか・・・でもあれはなんか違うんだよ
な。

「お圭が口リ『ノンとこ「う」』とがよく分かつたのじや。あと早く決めてほしいんじやが?」

おつと、能力はなんにしようかな~

最強でありたいしそれになるべく長く生きたいから吸血鬼ってもりなんだけど、原作みたいに吸血鬼だからって狙われるのは勘弁したい。

その条件で俺の知識の中にあるのはやっぱあれかな・・・

「俺を始祖精霊として転生させてくれ。それで『神曲奏界ポリフォニカ』の始祖精霊の能力を悪いところだけ取り除いたやつを頂戴。具体的に言つと、神曲は必要なしで絶望しても死なないようにしてくれ。

あと羽根の設定として、羽根は基本的に6枚で本気だせば8枚に変わるようにして『神曲奏界ポリフォニカ』に出てくる8柱の始祖精霊の羽根を自由に切り換えて使えるようにして。」

「分かったのじや。その願いを叶えよう

よしーこれでほぼすべての属性を使える存在になれる!~

「まだ他になにかお願ひできる?..」

「ん~・・・小さい願いなら大丈夫じゃ

「それなら俺の生まれ変わる前の今の記憶を忘れないように保存し

てくれ。あと原作の『魔法先生ネギま!』の知識をすべて覚えてるんじゃなくて断片的に残るようにしてほしいんだけど……」

「そんなことなら余裕じゃ。他に能力が欲しいとか言つと困つたぞ
い」

「いやいや、始祖精霊の能力だけで十分だから」

「ならもう転生させるぞ」

「ちよつと待つて。原作のいつに転生させるのかまだ聞いてないん
だけど……」

「そんなお主の能力が決まった時にどの時代に転生をされるかなん
てものは既に決まったようなものじゃ。」

「え……？」

「まあ楽しみにしているのじゃ。今のような悲しい人生を送るんじ
やないぞ」

神様がそういうと突然上空から裸の小さい天使が降りてきた……
天使が……降りてくる……このシーンは……
なるほど……こういう風に転生するのか。
なら……はお決まりのセリフを言つしかないな。

「パトラッシュ・・・僕はもう疲れたよ」

そして僕はどんどん空に運ばれていった。

その途中で、あの名作のキャラは実は転生したんだなと思っていると意識を失つた・・・

プロローグ（後書き）

始祖精霊が分からなければ「ポリフォニカ」のwikiを見てください

感想や意見、誤字脱字がありましたら報告お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0023z/>

ネギまに生まれた始祖精霊

2011年11月30日11時52分発行